

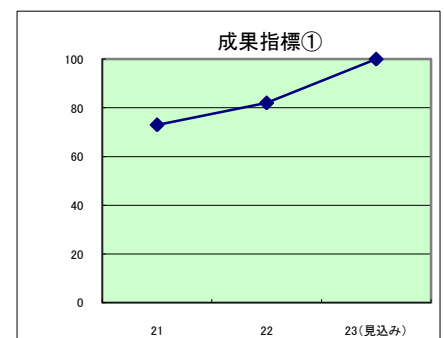
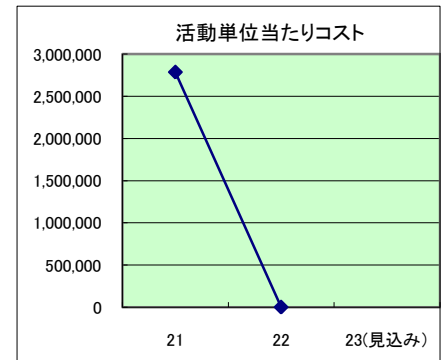
平成 23 年度 事務事業評価シート(平成 22 年度実施事業)

整理番号

教生社23

事務事業名		文化財発掘調査事業（峯ヶ塚古墳）		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち	款	10	教育費	
	施策(節)	5	市民文化・芸術	項	5	社会教育費	
	施策の方向	(1)	歴史的資源を活かしたまちづくりの推進	目	4	文化財保存事業費	
	関連する計画等			事業	60	史跡峯ヶ塚古墳保存整備	
作成部署				教育委員会事務局生涯学習室社会教育課（歴史文化推進室）			
連絡先				072 - 958 - 1111 内線 4481			
事業の目的	対象（誰を・何を）						
	峯ヶ塚古墳						
	意図（どういう状態にしたいのか）						
事業の内容	古墳を発掘調査し、市民をはじめ多くの方々に古墳が具体的に体感できると共に、歴史学習の場となるように復元する。						
	昭和62年度より継続してきた古墳の確認調査や整備計画案について、一定のまとめと整備・活用の方角性を整理し、大阪府及び文化庁と協議を重ね具体的に復元整備事業を推進する。復元整備に必要な調査を実施した上で、整備検討会での審議、基本設計や実施設計の策定を経て、早い時期に峰塚公園と一体となった復元整備を実施する。						
根拠法令等							
事業開始時期		☒ 昭和 62 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 市制施行（昭和34年）以前より行っている					
事業開始時からの状況変化		発掘調査により古墳本来の範囲が広くなり、復元整備及び史跡指定拡大が必要となる。					
市民や議会の要望		早期の古墳全体の復元整備と、歴史資料館の併設などが望まれている。					
実施手法		☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他（ ）					
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称（ ） ☐ 民間委託 ☐ その他		委託内容			

区 分		21年度	22年度	23年度	
		(実績)	(実績)	(見込み)	
事業費【1】 (千円)		1,901	3,265	89	
人件費【2】 (千円)		3,675	2,610	360	
職員数	正規職員	0.49 人	0.30 人	0.05 人	
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	臨時職員	0.00 人	0.25 人	0.00 人	
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		5,576	5,875	449	
財源内訳	国費 (千円)	899	1,392		
	府費 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他 (手数料・使用料等) (千円)				
	一般財源 (千円)	4,677	4,483	449	
活動指標(事業の活動実績)【B】		単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① 出土保存処理点数		点数	2		
② 調査件数		件数		1	
③					
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		2,788,000 円	円	円	
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		47 円	50 円	4 円	



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成21年度		平成22年度		平成23年度
	①	調査進捗率	%	峯ヶ塚古墳調査の到達度を見る。	目標	100	100	達成率(%)	100
		(式) (調査実施件数) ÷ (調査対象)			実績	73	82	82.0%	
	②	(式)			目標			達成率(%)	
					実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	峰塚公園と一体となって、古墳を整備し、歴史学習の場を提供することは、市民にとって学ぶ・憩う・遊ぶ場所として欠かせない。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	古市古墳群にあって、古墳に立ち入ることができる数少ない古墳の一つであり、復元整備し市民に開放することで、公園に付加価値を高めることができる。一体が既に公園として供用が開始されており、早期に古墳復元整備の必要性がある。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☒	☐	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	調査に限って言えば、効率良く着実に進んでいる。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	古墳を復元整備することで、羽曳野市が誇る歴史遺産を活用することとなり、大いにまちづくりの推進に貢献できる。古墳の早期復元の公開により、成果の向上を図る必要がある。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	発掘調査の成果については、現地での説明会をはじめ、整理後には報告書を刊行したり、遺物の展示(ギャラリー)などで公開・周知に努めている。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	公園オープンを期に改めて事業推進のスピードアップを図る必要がある。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当 部局 評価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	都市公園である峰塚公園が完成し、共用されているため、公園の中核となる古墳の復元整備は不可欠であり、さらなる事業の拡充や推進を図る必要がある。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行 革 本 部 評 価	整備委員会での十分な検討をはじめ、市民の意見の取り入れ、大阪府や文化庁との協議を積極的にすすめ、早期の復元整備をめざす。	
	総合評価	評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	